

講義名	対2)問題解決ツール			授業形態	
担当教員	毛利 進太郎	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

本講義は企業活動における課題解決と問題分析手法の理解を深めることを主題とする。更に本学のデイブロマボリシに沿って、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、具体的な改善策や解決策の提案ができるようになることである。
 企業や組織の運営では様々な問題に直面する。そして問題解決のための効果的かつ具体的な解決方法が求められる。そして問題解決では問題を数値的又は可視化して分析して問題の本質を特定することが求められる。そこで、本講義では問題を分析して解決するための基本的なツールについて解説を行い、問題を数値的又は可視化して問題のポイントを特定する力を養い、更に組織内で問題を共有するための問題分析、把握能力の獲得を目指す。また、具体的な問題解決事例による演習を通じて問題解決法の活用方法を学ぶ。

到達目標

以下を本講義の到達目標とする。
 (1) 問題解決とは何か、また問題解決手順を説明できる。
 (2) 問題解決に必要な基本的な手法を利用して、問題の本質の特定ができる。
 (3) 企業や組織に於ける問題の種類や性質の特定ができ、具体的な解決方法を実行できる。

提出課題

講義の終わりに当該講義に関する小テストを行うことがある。また、講義内容に関するレポートの提出を要求することがある。小テスト及び課題の提示と回収はRESPONにより行う。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題に対する評価や質問に対しては、必要に応じて講義内で解説と説明を行う

評価の基準

(1) 評価は講義への参加度合いと課題の提出状況により算出する。
 (2) 授業参加度5.0点、小テスト又は課題5.0点で評価する。
 (3) 課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。
 (4) 授業参加度の確認と小テスト及び課題の提示と回収はRESPONにより行う。

履修にあたっての注意・助言他

- ・授業の運用方法、評価基準、受講ルール等の重要事項を初回の授業で説明するので、履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。
- ・筆記用具を準備しておくこと。
- ・ポータルに資料がUPされている時は事前に確認しておくこと
- ・講義への積極的な参加を希望する。また講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。

教科書

.使用しない.

参考図書

その他

必要に応じて、教材をポータルにUPする。

授業計画

- 第1回 問題とは
- 第2回 組織に於ける問題
- 第3回 問題解決方法
- 第4回 データ分析の実際
- 第5回 チェックシート
- 第6回 線形モデルと回帰分析
- 第7回 重回帰分析
- 第8回 数量化 類分析
- 第9回 言語データの分析
- 第10回 言語データの分析その2
- 第11回 問題の要因分析
- 第12回 線形計画法その1
- 第13回 線形計画法その2
- 第14回 正解分布
- 第15回 まとめと演習

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

シラバスに当たった予習と配布された講義内容に基づいた復習を期待する。講義の参加に当たって、予習2時間と復習に2時間の自己学習が必要である。当該講義及び前回の講義内容について、小テストを行うこともあるので、授業後に復習を行うこと。講義に関連した小テストや課題は講義では説明をしていない関連項目に及ぶこともあるので講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

マネジメント力や問題解決力は現代の企業経営に不可欠であり、マネジメント力や問題解決力は現代の企業経営の証拠主義に不可欠である。従って、本講義を履修することにより本学のデイブロマボリシに於ける、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、具体的な改善策や解決能力を身に付けることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
